

## 会 議 録

会 議 名	平成 30 年度第 4 回八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会	
日 時	平成 30 年 11 月 12 日 (月) 午後 2 時 ~ 3 時 15 分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 502 会議室	
出席者氏名	委 員	井上仁会長、大宝院清孝副会長、荒井容子委員、石井淳委員、石田健太郎委員、内野彰裕委員、岡崎理香委員、鈴木紀幸委員、野中真理子委員、廣元洌委員、町田利恵委員、松野美樹委員、三浦誠委員、山本由佳理委員 (会長、副会長、以下五十音順)
	関連所管	中野目南大沢保健福祉センター館長
	事務局	豊田子ども家庭部長、澤田子どものしあわせ課長、小俣保育幼稚園課長、福田子育て支援課長、小池児童青少年課長、辻井子ども家庭支援センター館長、後藤主査、小島主査
欠 席 委 員	三浦佐知子委員、田上美穂委員	
議 題	<p>議題</p> <p>(1) 第 4 次子ども育成計画策定に関する基本的な方針について</p> <p>報告</p> <p>(1) 各部会の開催状況について</p> <p>(2) アンケートの実施状況について</p> <p>(3) 平成 30 年度 子ども ミライ会議 実施報告</p>	
公開・非公開の別	公開	
非 公 開 理 由		
傍 聴 人 の 数	0 名	
配 付 資 料 名	別紙のとおり	
会 議 の 内 容	別紙のとおり	
会 議 録 署 名 人	平成 30 年 12 月 19 日 石 田 健 太 郎	

### 配付資料

「子育てに関するアンケート調査」調査票 (別冊)

「子ども育成計画づくりに向けたアンケート調査」調査票 (別冊)

ユニセフ「子どもにやさしいまちづくり事業 (CFCI) 作業部会」について (チラシ)

「子どもミライフォーラム」子どもたちからの提言 (チラシ)

【井上会長】

これより平成 30 年度第 4 回社会福祉審議会児童福祉専門分科会を開催します。始めに、豊田子ども家庭部長から一言お願いします。

【豊田子ども家庭部長】

市では子どもに関するイベント事が多くて、先日も八王子駅北口で青少年の健全育成キャンペーン、児童虐待のキャンペーンがありました。来週のいちょう祭りでもイベントを出す予定です。

ご承知のとおり 11 月上旬に新聞報道であった小学生のいじめによる自殺について、教育委員会で対応しています。市でもいじめの条例を施行しましたが、残念ながらこのような結果になってしまいました。SNS を使った部分もあったという事で、現場では様々な事が起こっているという事を改めて知った所です。今日は第 4 次子ども育成計画に関し、そういった事も含めて皆様に審議していただければと思います。

【井上会長】

それでは事務局より資料の説明をお願いします。

【澤田子どものしあわせ課長】

各部会の開催状況について報告します。資料 1 をご覧ください。まず認可部会ですが第 1 回目の会議で、部会長が石田委員、副部会長が内野委員に決まりました。

審議内容としましては、新設保育所 2 件の事業者の決定に関する評価、保育所整備に係る計画承認申請及び国庫補助事業に係る評価、並びに小規模保育事業 2 件の計画承認申請及び国庫補助事業に係る評価を行ってきました。いずれも適当である旨の答申をいただいておりますが、保育事業者の引継ぎが必要な保育所に関しては、「十分な引継ぎを行う事」、小規模保育事業の計画承認に関しては、「定員に見合った連携施設の確保を行う事」という意見が付されました。

2 つ目としまして計画策定部会ですが第 1 回目の会議で、部会長が井上委員、副部会長が大室院委員に決定しました。

計画策定に関するスケジュールや、国から示されている各種指針を紹介し、計画策定の資料とするアンケートの内容についてご意見をいただきました。

本日もこの後、計画策定部会を開催しまして、第 4 次子ども育成計画策定に関する基本的な方針について話し合う予定です。私からは以上になります。

【井上会長】

この件についてご質問等ございますか。

続きましてアンケートについてご報告願います。

【澤田子どものしあわせ課長】

資料2をご覧ください。アンケート実施状況について報告します。

今年度、次期子ども育成計画の資料とするためのアンケートを実施した所です。

まず、上の表をご覧ください。

就学前児童の保護者に対するアンケートですが、先日、4,800通送付しまして、ただ今、次第に回答が集まっております。

ひとり親家庭の保護者に対するアンケートは、就学前児童の保護者と重複しないように児童育成手当受給世帯から800人抽出して送付しています。

調査票は、別冊としてお配りしています、「八王子市子育てに関するアンケート調査」です。ひとり親家庭向けの質問も組み入れた共通の調査票としております。

下の表に移りまして、

小・中学生を対象としたアンケートですが、現在準備を進めており、12月の初めには各学校に配布する予定です。

調査票は、別冊の「八王子市子ども育成計画づくりに向けたアンケート調査」です。小・中学生共通の調査票としております。

先日、小・中学校の校長連絡会に出向き、協力の依頼をした所ですが、何人かの校長先生からご意見をいただいた所を修正中でして、本日は未定稿としてお受け取りください。

以上の集計結果については、2月の分科会で、速報値をお知らせしたいと思います。

私からは以上です。

【井上会長】

これについては経過報告という事でよろしいでしょうか。

続きまして子どもミライ会議の実施報告についてお願いします。

【小池児童青少年課長】

平成30年度の子どもミライ会議の実施について報告いたします。子どもミライ会議とは何か、という事ですが平成13年2月に八王子市が、ユニセフの「子どもの権利条約」の精神を尊重し、「八王子市子どもすこやか宣言」を行いました。

子どもすこやか宣言は5つの内容からなっています。

・わたしたちは 人にはみんな違いがあり みんなよい所をもっている事を認め お互いに相

手を尊重します

・わたしたちは がまんする事の大切さを理解するとともに 好きな事に夢をもち 元気にくらしします

・わたしたちは しっかりと自分を表現し 自分の意見や行動に責任をもちます

・わたしたちは 子どもたち一人ひとりが大切にされ 安心して生活できる家庭を望みます

・わたしたちは 家庭や学校そして地域で学習する楽しさがわかり 自分の可能性を伸ばす事のできる環境を求めます

このすこやか宣言の普及啓発事業として、平成 13 年から「子ども会議」、「子ども議会」、「子どもミーティング」、「子ども意見発表会」と、変遷を重ね、現在は、「子どもミライ会議」として、子どもの「意見表明権」を具体的実現するための取り組みを続けております。

これまでの取り組みの中で、小学生から高校生まで、幅広い世代の子ども達が、八王子のまちづくりについて、自ら考えた意見や、日頃から感じている意見を、市長・教育長に直接提案し、まちづくりに反映しております。

過去の主な意見が反映された事例といたしましては

・平成 20 年「こども政策課」から「子どものしあわせ課」に課名変更。

・平成 23 年 浅川の看板標識を新しくして欲しいとの意見に対し、看板・標識等の一斉点検を実施。

・平成 27 年 松が谷地区の公園が夜暗いとの意見に対し、街路灯付近の樹木の剪定を実施。

資料 3 をご覧ください。(資料 3 を読み上げる)

来年度以降どんな形で子どもミライ会議をやっていくか検討していきたいと思っております。

子どもミライ会議の実施の報告を終わります。

【井上会長】

子どもミライ会議は今まで分科会の委員の方々には招待状を頂いて臨席していたように思うが今年は頂いてないと思う。出来たら委員の方々にはご参加頂きたいのと、詳しい報告については、今お話がありましたが大事な内容なので資料を頂きたいです。

【小池児童青少年課長】

毎年、実施報告書を作っていますので出来上がったらお配りします。

【井上会長】

来年度は分科会と連携して、計画の中に子ども達の意見の反映できるよう、機会を作っ

てほしい。子ども達も予定がタイトだと思うので、委員会との擦り合わせは大変だと思いますが、来年はまちづくりに関して委員と子どもが同じ立場で一緒に八王子の子ども計画づくりのセッションが出来る場を設けていただきたい。

【岡崎委員】

会長からお話があったとおり、例年は子ども達と委員との意見交換会がありましたが、今年は無かったので、そのような機会を設けていただければありがたいと思います。

【井上会長】

市長との意見交換会の後で分科会委員と子ども達との意見交換会をしていました。子ども達が分科会とつながっているという事を実感していただくのも参画という意味で大事な事ですので、よろしくをお願いします。

学生リーダーがピンチじゃないですか。

【小池児童青少年課長】

もう少し集まってもらいたい。児童館で育った子達が今大学生になって受けてくれている。中学生達も児童館に足を運んでくれているので、次の世代を育てていきたいと現場でも考えています。

【井上会長】

市内でこのような活動をしている大学とコラボするとか、考えていかないといけないですね。当初は10人以上リーダーがいたが今年は5人。来年はもっと減ってしまう。

【小池児童青少年課長】

何とか人材を確保していきたいと思います。

【井上会長】

各フォーラムの子ども達の意見とミライフフォーラムの意見集約したものは、委員に配りましたか。もし配っていなければ、次の機会に配ってください。

100周年で各フォーラム全部に中学生が参加して、それぞれに意見・協議していただいていますし、ミライフフォーラムでは、先ほどあった5項目それぞれの分野で提言を頂いていますから、それを踏まえて次の計画にいく事になります。

もう一枚のチラシですが、町田市がユニセフの子どもにやさしいまちの検証事業に参加をされるという報道がありました。八王子市も当初作業部会に参加していましたし、100周年記念事業の子どもミライフフォーラムではユニセフの理事に講演していただきました。検証を受けるだけの中身はあったと思います。子ども会議もやっていますので。他にも、今

日、記事は用意出来ませんでした。西東京市が子ども条例を制定したり、いくつかの自治体が子どもを基盤にして都市づくりに乗り出していますので、その一つとしてご覧いただければと思います。

続きまして第4次子ども育成計画に関する基本的な方針について、事務局から願います。

【澤田子どものしあわせ課長】

資料4をご覧ください。まず、下の枠、現行の計画についてからご説明いたします。

現行の第3次子ども育成計画は、平成27年度から31年度までの5年間を計画期間としたものです。子ども・子育て支援事業計画、ひとり親家庭自立支援計画、母子保健計画を内包し、八王子ビジョン2022、地域福祉計画の下位計画として位置付けられています。このほか、記載はしてありませんが、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「行財政改革大綱」、「総合教育大綱」などの各方針が上位に位置付けられています。

次のページに移りまして、次世代育成支援対策推進法との関係をご説明いたします。

子ども育成計画には、ひとり親や母子保健の計画が内包されていると紹介しましたが、子ども育成計画の主たる内容は、次世代育成支援対策推進法という法律に定められた「市町村行動計画」です。

この次世代育成法は、もともと平成26年度まで有効な時限立法でしたが、10年間延長になりまして、平成36年度まで有効なものとなりました。

第3次子ども育成計画は、この延長した法律の前期5年間を計画期間としたものです。従いまして、これから策定する第4次の計画は、現行計画を引き継ぐ「後期計画」の性格を有するものでございます。

では、その下の枠、「各施策の達成度及び評価」をご覧ください。

「(1) 施策指標の達成度」の表ですが、量的目標に到達しているかどうかという点については、中間年の平成29年度で、未達成が30パーセントほどあります。理想どおりに進んでいない施策が存在している点についての検証とともに、目標値や指標の設定そのものが適正なのかを、次期計画を作る際には再考する必要があるかもしれません。

また、「(2) 評価」の表ですが、こちらは、本年5月と7月にこの分科会でも評価していただいたように、分科会による評価の状況です。例年、おおかた「B」の評価をいただいています。

指標は未達成のものがありますが、17の基本施策ごと、大きな視点で見た場合には、

おおよそ評価いただいている状況です。

次のページに移ります。

上の段、「社会情勢の変化による課題や市の取り組み」をご覧ください。

第3次子ども育成計画策定時の平成27年4月からこれまでのさまざまなイベントを並べてみました。

まず、1番・人口減少の件ですが、就学前児童数がこの3年間で2,000人弱、減少しています。割合からすると、7.3%の減少です。

このように子どもは減る一方で、3番・児童虐待に関する子ども家庭支援センターへの連絡は増え続け、子どもが置かれた環境の変化がうかがえる所です。

では、中段の「法改正」の分野ですが、

政府では、7番から9番までありますように、経済政策、少子化対策の取り組み方針を発表し、女性就業率80%、合計特殊出生率1.8の実現を掲げると同時に、具体的な政策としては、幼児教育無償化などを打ち出しています。

下段の、「市の取り組み」としましては、

11番ですが、本年2月には、100周年記念行事の「子どもミライフオーラム」を開催し、子どもたちが未来の八王子を思いながら考えた提言を発表しました。

12番につきましては、中核市移行と共に保育施設等の認可・検査・指導権限を八王子市が持ち、東京都の補助金の打ち切り分を市の自主財源で賄いながら、施設整備や事業執行を進めてきました。

13番・保育定員については、平成27年4月から本年4月までに590名の定員増となり、待機児童も、ほぼ解消のめどが立ってきました。

15番ですが、本年3月に上位計画である地域福祉計画が改訂となりました。

第4次の計画に盛り込む内容を考えるうえでは、これらの要素が参考になるかと思いません。

そこで、下の枠ですが、事務局が現段階で考えた「次期計画策定の基本的な考え方」を記しました。

1. 現行計画の基本理念「みんなで育てる みんなが育つ はちおうじ」は堅持する  
これは、現行計画策定時、ビジョン2022や延長次世代育成法の下で掲げた子ども・子育て支援の「基本理念」は、現在も市が求める姿として変える理由は特段なく、前期計画との一貫性を考慮し、変更しないという考えです。

2. ビジョンフォーラムの成果を活かし、「ミライへの提言」を始めとした次の100年を担う子どもたちの視点を取り入れる

これは、先ほども触れました100周年記念行事の「子どもミライフォーラム」の中で、子どもたちから提言をいただいておりますので、そういった子どもの視点も取り入れられる所は取り入れたい、というものです。

3. 良好な保育環境の整備や教育・保育従事者の研修により、教育・保育の質の向上に取り組む

これまで待機児童対策が大きな課題であり、保育定員の増といった量的充実に力を注いできましたが、この先は、質的な充実に力を入れていきたいというものです。

4. 八王子版ネウボラを始めとした安心して産み育てられる環境づくりをさらに充実する

虐待死が多いとされる0歳児の命を守るには、妊娠期からの見守りが有効でありまして、平成28年に開始した八王子版ネウボラを継続して定着させたいと考えています。また、安心して産み育てられる環境づくりは、少子化対策にも欠かせないものとなっていることから、重要性が高いものとして位置付けたいと考えるものです。

5. 多様化・深刻化する子ども・若者に関する課題を、組織横断的に対応していくため、子ども・若者支援計画を内包した計画とする

もうだいぶ前になりますが、子ども・若者育成支援推進法が平成21年に公布され、国において平成22年に「子ども・若者ビジョン」が定められました。その後、平成28年には「子ども・若者ビジョン」改め「子供・若者育成支援推進大綱」が定められました。

これまで八王子市では、若者就労支援や就職相談、就職ナビの運営などに取り組んできましたが、ひとり親家庭の増加、不登校の増加などが見られた10年前の子どもが、年齢的に青年期に移行しており、近年、若者サポートステーションのニーズが多くなってきている事からも、支援の必要性が高まっていると認識しています。本年度は、若者サポートステーションと連携した本市独自の若者就労支援も、対象者の範囲を広げた所です。これらの事から、子ども・若者への支援策も含めた計画にしようというものです。

以上、基本的な方針についての考えを説明させていただきました。委員の皆様の意見をいただければと思います。

最後のページですけれども今後のスケジュールでございます。この分科会の後、計画策定部会で考え方についての意見を詰めていただきまして、その後、庁内での会議を経て、



政策的な決定を行う予定です。表で示しましたスケジュールは、若干流動的であります事をご了承お願いいたします。私の説明は以上です。

【井上会長】

今日は重点的に3を踏まえて4の所で皆さんの基本的なご意見を伺いつつ、この後の計画策定部会でも議論を深めていきたいという方向になります。7年後を目指しての計画の策定に入るわけですが、分科会全体の意見を皆さんからお伺いするという事でいかがでしょうか。

八王子の人口減少状況はどの程度でしょうか。国全体は7%強の減少になっているとの事ですが。

【澤田子どものしあわせ課長】

八王子は今年の4月1日就学前児童数が23,806人、3年前の平成27年は25,695人でしたので1,889人減っている状況です。

【井上会長】

これからは、人口減少から逃れられません。豊島区の人口減少が話題になりました。工夫した施策で人口を増やしていますが、どこの市もこの問題から避けて通れません。首都圏全体では、流入人口が多いので微増になっています。八王子市は、就学前児童数が年あたり600人超くらい減っている事になります。小学校1校分くらいの勢いです。ここに子ども計画を焦点化していかなくはなりません。どうしたら少子化を食い止められるかが、次世代育成推進法が掲げる大きな課題でもあります。今までは保育問題でしたが、それだけでは選べないという事になってきました。いじめ問題、子ども達の置かれている状況がかなり厳しくなっている事に想像がつかます。そこも併せてここで議論していただくようになります。この分科会は、教育と福祉一体になって子育て環境を考えるという八王子独自の分科会になっていますが、先程出たのが量から質への転換という大きな課題です。八王子の保育の質、幼児教育の質、という問題も次の段階での大きな論議になるかと思えます。選ばれる都市、子ども達にも選んでもらえるよう、ご意見いただければと思います。

市の取組みの15番目、地域福祉計画が改定されて福祉圏域が中学校区という事が基本方針で打ち出されてきています。子ども企画に関して、市のほうで中学校区ごとに組み直した物等についても資料提供いただきたい。今までは八王子全体で1区域として計画を立てていましたので、地域格差を気にせずになりました。そういう新しい問題も出てきます。駅前・利便地域には人口が集中し、八王子は大きい都市なので地域的な問題も出てきますの

で、それらを併せて子ども計画では考えていかななくてはならないという課題があります。

他に、こんな事をプッシュしたらどうかなど、意見はありますか。

**【荒井委員】**

子どもを取り巻く環境が変わってきていて、いじめなど見えてこない部分にどう取り組んでいけばいいのか。中学校 PTA 連合会では、以前から SNS のルールとかを子どもにどう伝えるかという研究グループがあり、数年前からは、小学校 PTA 連合会でも一緒に研修会をしています。なかなか答えが出てきません。どこまで気づいてあげられるか、学校だけの問題ではなく家庭でも何か出来ないか。どう計画に盛り込んでいくか分かりませんが、ミライフォーラム等に参加する子どもは考えがあって生き生きしているが、そうではない子どもにも光があてられるように考えていきたい。

**【井上会長】**

いじめが潜在化している中で、最後、命まで奪われてから顕在化するようでは、子ども達も安心できません。子ども達が「守られている」と感じる事ができる環境をどう作るのかが大事で、この分科会でも課題になってきます。

**【石田委員】**

以前から話には出ていますが、保幼の段階での仲間づくりは、うまくいっていると個人的には思っています。ただし、保幼から小、あるいは小から中高に進学する移行期の仲間づくりや支援・連携が一つ課題かと思っています。八王子市の市域は広く、進学などをきっかけにそれまでの仲間集団から離れることがあるでしょうから、母子保健と同様に切れ目のない支援が出来るといいのかな、と感じます。

また、社会的養護の面では、市内に新たに一つ養護施設が出来ましたが、管轄が都という事で、市としては距離を感じると思いますが、市に居住する子どもということで連携が必要かと思っています。児童相談所が設置されなかったことは残念ですが、財政的に難しいという事であれば他の方法・社会資源を活用しながら支援の網の目を作っていくことを考えていかなければならないと思います。

また、今回のフォーラムは、特に社会的養護、虐待、低所得対策という限られた対象の子どもたちのみを対象とした取り組みというわけではなくて、全ての子ども、全ての家庭にサポートが必要という前提を市として確認しあうため開催されたものと受け止めています。特別な配慮が必要で支援を手厚くする部分を考えつつ、同時に大人も子どもも中心にあるまちづくりとその支援が今後必要になってくると思います。フォーラムでイベント

的・一時的に終わらず、継続的にこの理解・動きが続くような展開が今後の施策の中で位置付けられると好ましいのかなと思っています。

【井上会長】

社会的養護の所は難しい課題ですね。セーフティネットが機能しなければ他の子ども達も安心できません。相談支援体制で言いますと、社会的養護というと児童養護施設とか児童自立支援施設に目が向きがちですけど、ひとり親の家庭、貧困家庭、要支援の子ども達が行政としては一番難しい所です。子どもの部署だけでなく、生活自立支援課との連携等も含めて、どう総合的にサポートするのが課題になってくるので、今ご指摘があった所を含めて議論を深めていきたいと思います。

【内野委員】

保育・幼児教育の立場から言わせていただくと、3番の保育の質の向上、それをどこまで具現化できるかを心配します。最近問題になっている保育者の継続性、1ヵ所においてどれだけ継続して勤務できるかという点では、最近年数が下がり、1年経ったら別の園に行くというケースも良く聞かれます。そうすると、保育の成果とか蓄積してきた事を熟成させていく事が出来ない。子どもにそれを伝えてく事が出来ない。園の文化を作り維持してく事が出来ない。いろんな意味で保育者の継続性の欠落が問題を生む要因になっていると危惧しています。

制度で言いますと、幼稚園は今まで満3歳から預けられましたが、少し早めて学齢2歳からという流れがきています。4年保育化という事です。4年保育に対しての支援が他の市区町村で出てきています。最大2年間の育休が取れるようになりましたので、0～1歳で育休取って、2歳から保育園とか幼稚園という選択肢が出てくると思います。

無償化の問題は、どうなるか心配している所です。幼稚園は預かり保育も無償化になる予定です。園によって異なりますが、だいたい8～18時くらいまで無料にて幼稚園でお預かり出来るようになる、保育園とほとんど同じになります。今まで幼稚園は9～14時くらいまで保育を行い、その後は教材研究・準備によって質を確保してきましたので、今後は、質の維持と、預かり保育に要する人材の確保を含めた態勢作りが急務です。またそれに伴い、親子と一緒に居られる時間をどうやって確保していけるか、という所に気持ちを向けないといけないと危惧しています。

また、障害児への支援についてですが、各園で気になる子どもの保育に力を入れ、加配教諭、加配保育者を配置して個別支援を含めて見られるようになってきていますが、小学

校では人員配置がまだ足りない状況もあるようです。また、島田療育センターにお世話になろうと思ったら、新規で8か月～1年待つという状況です。支援を受けるまで待っている事は出来ないで、各園で発達支援コーディネーターを育成しようと市にも理解を頂きながら進めています。各園でコーディネーターを置きながら障害児保育の質を高めていく試みをしている所です。それにしても、中枢的な機関として島田療育センターのような機関がもう少し必要と感じます。

【井上会長】

今年4月に保育指針も大きく改定されて、保育・養育・養護から教育も含めての新しい踏み出しと職員の質の問題が大きく取り上げられていますし、それを受けて八王子市がどういうふうにやっていくのか大きな課題です。職員の継続性は、財政との向き合いもあるのでしょうか、23区と人材を取り合う中、中核市八王子がどう人材を確保していくのか。取り合いが各自治体で始まります。これだけ保育系の大学を抱えているのに八王子で人材が足りないという事ならば、大きな課題として考えていかないといけません。

発達支援に関しては、発達支援センターを市として持っていませんので、総合的サポートを含めての課題です。島田療育センターに頼ると1年近く待たされる状況、そうになると親御さんは周辺地域に逃げて行ってしまいます。

保幼小に関しては、委員に校長先生がいらっしゃるので具体的に提言できるといいですよ。特別支援教育と発達に課題を持つ子どもの幼児期の教育との連携という新しい課題だと思います。ぜひ論議にのせていきたいと思います。

【岡崎委員】

今までの3名の委員のお話を聞いていると、現行計画の基本理念にもあるように、みんな育てる、とという事に集約されるのかなと思っています。

新しい育成計画でも、その辺りをより充実させた所、という事になるのではないのでしょうか。基本方針とか基本施策とか色々ありますが、皆さんの専門的なそれぞれの領域の所でみんな育てる、いわばオール八王子感を出したような施策を取り入れたらどうか、と思いました。

この後にある計画策定部会をお願いしようかなと思っていましたが、12月に実施する子どもへのアンケートの質問項目の追加はまだ間に合いますか。

みんな育てるという所で考えても、地域が重要なキーワードだと思います。居場所に関してはアンケートの最後に質問項目がありますが、どんな所が自分にとって心地がいい

場所なのか、住んでいる地域がどうあって欲しいか、どういう事をしてもらいたいのか、地域の人達とどう関わっていききたいか等、2番目にも関わる事なのですが、子どもの参画という部分がこのアンケートでは抜けているのかなと思いました。

基本的な考え方の2番目、ビジョンフォーラムの成果を活かして、「ミライへの提言」子どもたちの視点を取り入れる。という事ですが、先ほどご紹介いただいたように「八王子は私達がつくるまち」とまとめてくださった。という事は、子ども達が参画するという意思を未来への提言に盛り込んだという事ですので、もう少し子どもの参画を重視したようなものにしていただきたい。その前提として、子どもに向けたアンケートの中に自分たちの参画意識についての項目を是非取り入れてくれたら、子どもたちの今思っている事が分かるのかな、と思いました。ビジョンフォーラムに参加してくれた子ども大使のような子ども達はしっかりした考えをもっているの、一般の無作為抽出した子ども達とは多少違った感じが出てくるのかもしれませんが、子ども達が「八王子は私達がつくるまち」と言った提言は全面的に出して頂ければと思います。

**【井上会長】**

子ども達、若者達がまちづくりに参加という項目があるので、若者達をこういう所に入れ込んでくる仕組みづくりが必要だと思いますし、若者が参加していない所で勝手に若者計画を作るのではまずいと思うので。小中学生だって意見が言えるという事がミライフォーラムではっきり分かったので、どう活かしていくのか後期計画でも大事な視点になるのかなと思います。是非色々なご意見をいただければと思います。

**【鈴木委員】**

この行動計画は少子化対策が基本にあると思うのですが、その基本的な部分がまだ達成出来ていません。始まりが平成17年からですから、13年ぐらい経つが未だに達成出来ないという所を、他の自治体も同じでしょうけど、検証はした方がいいのかなと思っています。

私どもは学童保育を所管しています。今、正規職員が55人、他の300人くらいは全部非正規。先ほど話があったように継続性という所を見ますと、すぐに辞めてしまう傾向があります。指導員の人材の流出が起っています。ある程度経験をして育った指導員が、ある時突然、給料の良い方に行ってしまう。子どもとの関係がそこで切れてしまう。「あの先生はどこに行ってしまったの？」という事が現実には起っています。

社会福祉協議会は、指定管理を受けているという事もあり、今まで正規指導員を採用し

ていませんでした。現在の正規指導員 55 人の平均年齢が 45 歳、次の新しい指導員に教えるにしても、今まで採用していないので育っていない。昨年から正規採用を始めて、増やしていこうと思っていますが、これから将来の少子化を踏まえると見込みが難しい。今は学童保育所が増えています、減った場合も考慮しながら採用していかないと、採用した職員の職が無くなってしまいます。そこも踏まえながら将来の見込みを立てて、いま職員採用をしている所です。

質の面では、今まで学童保育の指導員は、特別な免許が無くても出来る仕事でした。これからは放課後児童支援員という資格を順次取っていきますので、今後は向上すると思います。子どもを扱う、命を預かる施設ですから、社会福祉協議会では、安全・安心・遊び3つを大きなテーマとして取り込んでいます。人材の確保・人材の育成、研修は重ねてやっています、市からも研修を紹介され、独自に市内の研修に参加し、他の自治体の社会福祉協議会の学童保育所とも連携を取って情報交換もしていますが、いつも同じメンバーになっていて、新しい人材を育てるのは難しい。今後の計画の中で、人材の確保と育成に重点を置いてもらっても良いのかなと感じています。

【井上会長】

中核市は、自分で支援員研修を開催出来るのでは。独自でやっている自治体も出てきています。

時間が無くなってきましたが、他の方はいかがですか。

【三浦誠委員】

待機児童ゼロ、定員の確保の必要性がある一方で、人口が減っているわけですから、雇用の安定が崩れないよう、バランスを考えていただきたいです。

あと、基本的な考え方の「みんなで育てる」の「みんなで」というのは誰になるのか明確にして考えないと、ピントが外れる可能性があるのではないかと思います。

【井上会長】

「みんなで育てる」の「みんな」は、社会全体、八王子全体という事で明確にしています。保護者、特定の誰かにという事ではなく社会全体で子どもを育てていくという事が前回の計画の理念で、それが子どもにやさしいまちにつながって、そこはぶれないと思います。

問題は、雇用の安定も含めてですが、地区によって保育需要に差が出てきています。開発が進んでいるのは駅周辺、ニュータウンは高齢化に向かっているというバランスの問題

が出てきます。次回の保育計画の中で言うと、市全体の保育需要というよりは、市の中の圏域ごとの保育の需要と計画を見直していかなくてはなりません。空いた保育所をどうするのか、活用の問題とか集中した所の子どもをどうするのか。市全体で保育を考える仕組みを考えていかなければなりません。市全体の枠組みはもちろん、圏域ごとと地区間のバランスを含めて、新しい計画を考えていかないといけない。計画としては6~7年後を目指しますので、十分可能だと思います。提言をいただく中で雇用をどう確保してくのか。新しい仕組みづくりを後期計画では考えていかなくてはなりません。

他にみなさんどうですか。

【山本委員】

八王子ママの会というのをやっています。母親視点でみんなを見ていて思うのですが、母親が孤独になりやすくて、それが子どもに影響してしまい、子どもが学校で荒れるという流れがあると思っています。行政側のみなさんに体制を整えていただくのは大事ですが、もう一步踏み込んで欲しいのは、お母さん側を救うような視点を持っていただけたらと思っています。子どもは家庭が基盤です。お母さんが満たされていれば、子どもに反映し、いじめが減っていくのかなと思うので、そういう視点を持っていただけるといいなと思います。

【井上会長】

若い世代、子育て世代が孤立する課題は、虐待の所で明らかになっています。母親たちの孤立防止については、ネウボラを作りましたが、どれだけの効果がでているのか、子ども家庭支援センターではどうなのか、検証が必要になってくるかと思います。

【町田委員】

お母さん側の支援も必要だと思いますし、いじめの部分で言うと、お子さんが誰にも打ち明けられなくて最後は死を選んでしまうような事件が発生しています。八王子市にも相談窓口の電話番号はありますが、電話する勇気があれば、先生や親にも言えると思います。

今、ほとんどの子がスマホとパソコンを使っているので、そこで声を聞いてあげて、すぐに返事が来なくても、まず聞いてあげて適切なアドバイスを返してあげられる要素があった方がいいと思います。働いているお母さんが時間を作って相談窓口へ何度も出向いてストレスになる事はありませんし。心ある同級生からの通報なども出来ると思います。追い詰められている人は、メールのやり取りがあって信頼関係が成り立って、やっと電話してくると思うので、そういった施策も織り込めるといいと思いました。

**【井上会長】**

今はメールよりラインですよね。NPO のチャイルドラインも電話だけでなく、ラインで相談を受け付けている。行政の仕組みは、いじめの委員会、障害者の権利擁護委員会など複数あり、わかりづらい。ワンストップ型を作るには、行政としての決断と時間が必要になりますし、議論していく中でみなさんの意見を分科会の答申にどう盛り込むか、重い部分だと思います。

この後、計画策定部会があります。次回までに部会でも原案を作って提示していきますが、最終的にみなさんのご意見を伺って基本的な理念に関して審議会としてもまとめていきたいと思います。もっと議論しなくてはいけない所ですけども、次の部会でお願いします。

**【澤田子どものしあわせ課長】**

今回は2月4日(月)午前中を予定しています。次期計画の事と、31年度の充実事業に関するお知らせなどを予定しておりますが、詳細は、改めて通知させていただきますのでよろしく申し上げます。ありがとうございました。